

研究の概要

20 21 年 8 月 25 日

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせ下さい。

研究課題名：	未熟卵体外受精法における成熟培養を延長する効果
代表研究者 (所属・氏名)：	医局 中岡義晴
研究の目的：	未熟卵体外受精法における卵子の成熟培養は26時間行い、その時点で成熟卵を顕微授精していますが、その後に遅れて成熟する卵子も存在します。これら卵子にも顕微授精を行い、順調な胚発育や治療へ用いる胚に育つのかを検討します。
調査データ該当期間：	20 19 年 1 月 1 日 ~ 20 20 年 12 月 31 日
研究の方法 (使用する試料/情報等)：	成熟培養26時間で成熟した卵子を通常通り顕微授精を行う一方で、成熟していない卵子を20時間追加培養を行い、成熟した卵子に顕微授精を行って、培養を行います。この培養延長を行った時期と行っていない延長前の時期での臨床成績を比較し、延長培養を行うことが治療上意義があるかどうかを検討します。
個人情報の取り扱い：	個人が特定できないように連結可能匿名化を行い、個人情報を保護しています。
本研究の資金源 (利益相反)：	なし
お問い合わせ先 ：代表電話 ：担当者(部門・氏名)	06-6534-8824 生殖技術部門 佐藤学
備考	